

平成28年度第3回刈谷市総合教育会議 議事録

1 日 時

平成29年2月15日（水）午後4時～午後5時5分

2 場 所

刈谷市役所 701会議室

3 議 題

(1) 主な平成28年度事業の進捗状況について

(2) 意見交換 テーマ「子どもたちに自信とプライドを育むには」

4 出 席 者

市 長	竹中 良則
教育委員会 教育長	太田 武司
教育委員会 委員（教育長職務代理者）	池田 裕幸
教育委員会 委員	神谷 修
教育委員会 委員	日下 ゆかり
教育委員会 委員	畠 留美

5 欠 席 者

なし

6 会議構成員以外の出席者及び事務局

企 画 財 政 部 長	清水 一郎
教 育 部 長	間瀬 一芳
企 画 政 策 課 長	岡部 直樹
教 育 総 務 課 長	加藤 幹雄
学 校 教 育 課 長	神谷 拓生
企画政策課 課長補佐兼政策推進係長	高野 洋
教育総務課 課長補佐兼施設係長	塚本 吉郎
学校教育課 課長補佐兼学事・保健係長	加藤 重行
企画政策課 経 営 管 理 係 長	山口 繁
教育総務課 総 務 係 長	神谷 友理
企画政策課 主 事 （ 書 記 ）	伊藤 志穂

7 傍 聴 人

2名

(企画財政部長)

定刻になりましたので、ただいまから平成28年度第3回刈谷市総合教育会議を開会させていただきます。企画財政部の清水でございます。どうかよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中、当会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

それでは、会議に先立ちまして、刈谷市長の竹中良則よりごあいさつを申し上げます。

(市長)

皆様、こんにちは。市長の竹中でございます。

教育委員会定例会に続きご参加いただき、誠にありがとうございます。2月も中旬になり立春も過ぎましたが、春とは名ばかりで寒い日が続いております。インフルエンザは全国的にまだ猛威を奮っており、本市職員も体調を崩している者が例年よりも多く、気掛かりなところ です。

しかし、一時期よりは寒さも和らぎ、少しずつ春の訪れも感じられます。3月も近づき、季節は確実に移り変わっております。私どもも明日から3月の本会議定例会を控えております。また、今週月曜日には平成29年度の予算案を574億5千万円と発表させていただきました。主に歴史博物館、特別支援学校、そして学校給食センター等の継続事業が多く、大変大型の予算となりました。過去の予算は580億円が最高でしたが、本年度はそれに続く2番目に大きな予算ということになります。現在、本市の既存施設は多くの人に広く活用していただいているところで、今回も教育施設等の建設にあたっては確実に進めてまいりたいと思っております。

本年度は3回目の総合教育会議となりますが、引き続き、子どもたちが夢と希望を持ち続けられるよう様々な取組をしてまいりますので、皆様にもご支援とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(企画財政部長)

ありがとうございました。それでは、議題に入らせていただく前に、本日の会議資料を確認させていただきます。

資料は、事前にお渡しさせていただいておりますが、本日ご持参いただいていない場合は、用意いたしますのでお申し付けください。

最初に、本日の次第、次に当会議の名簿、続いて、

資料1：主な平成28年度事業の進捗状況について（A4 ホチキスどめ）

資料2：平成29年度刈谷市総合教育会議開催予定一覧表（案）（A4 1枚）

そして、本日、机の上に配付させていただきました座席表でございます。資料の不足がございましたら、お申し付けください。

続きまして、本日の出席者につきましては、お手元の座席表をもって代えさせていただきます。

それでは、次第に従いまして議題に入らせていただきますが、これより議事の進行は竹中市長にお願いしたいと思います。

(市長)

皆様のご協力を得まして、円滑に進行してまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。議題(1)「主な平成28年度事業の進捗状況について」を事務局から説明をお願いします。

(教育総務課長)

それでは、議題(1)「主な平成28年度事業の進捗状況について」説明いたしますので、お手元の資料1をご覧ください。

第1回総合教育会議にてお示ししました各事業の進捗状況を報告させていただきます。まず、「知」の「確かな学力の定着」では、少人数授業充実事業の実施についてです。全小学校の国語、算数の授業で実施し、児童一人ひとりにきめ細やかな指導を行った結果、本年度の全国学力・学習状況調査における本市の小中学生の学力の結果は、全国、県の平均正答率を上回り、小学校、中学校ともに成果をあげています。特に中学校は、小学校での基礎がしっかりできていることから国語、数学ともに大変よくできています。また、理科観察実験支援事業や理数大好き推進事業では、観察実験アシスタントの派遣や理科研究補助を行い、本年度のソニー子ども科学教育プログラムでは中学校4校、小学校4校の計8校の理科の授業の取組が評価され入賞しております。創意工夫育成功労学校賞において6校が文部科学大臣表彰を受け、日本学生科学賞においても優秀賞を受賞しています。

次ページをお願いします。「徳」の「豊かな心の育成」では、東吉野村文化交流事業を実施し、今年度は10月に1泊2日で日高小学校、富士松東小学校、小垣江東小学校の6年生が東吉野村を訪れ現地の方と交流を行い、天誅組を通じて江戸末期の歴史を学ぶことができました。また、中学生被災地派遣事業では、市内の全中学校の代表生徒24人が夏休みの8月19日から21日まで石巻市の被災地を訪問し、各学校での報告会において自身の言葉で体験談を発表しました。直接体験してきた生徒は、皆の前で報告したことにより自信を持ち大きく成長があったものと感じています。報告を聞いた生徒も同じ世代の体験談を直接聞くことにより、大きな刺激を受け、自分ができることについて考えるきっかけ作りになったと考えます。

次に、「体」の「健やかな身体づくり」では、部活動指導者活用事業の実施により、各分野において優れた25名の外部指導者から指導を受けることにより、部活動の活性化を図りました。その中で、例えば弓道においては、技術の向上はもとより礼儀作法といった精神面でも正しく指導を受けることができました。

次ページをお願いします。「環」の「学習環境整備・安心安全確保」では、日高、小垣江、小垣江東小学校、富士松、依佐美中学校の大規模改造工事により、きれいな教室や新しい設備の中で学習に取り組んでいます。また、刈谷東中学校の中南舎の建て替え工事は、平成29年9月、来年度2学期からの使用を目標に工事を進めています。次に、空調設備整備事業は大規模改造事業を実施した校舎については、すでに設置をし、それ以外の学校について、中学校は平成29年度、小学校は平成30年度設置のための設計業務を実施しました。特別支援学校建設事業は、小垣江東小学校の敷地内で工事を進めており、現状ではまだ校舎らしいものにはなってはいませんが、工事は予定通り進んでおります。なお、今年の1月27日

には、対象児童の保護者向けの説明会を実施しました。第一学校給食センターは、同じく小垣江東小学校の敷地内で工事を進めており、こちらは鉄骨の骨組みができてきて、それらしい形が出来上がってきました。順調に工事が進んでおり 7 月下旬には完成できるものと考えております。

議題（１）「主な平成 28 年度事業の進捗状況について」の説明は以上となります。

（市長）

では、事務局からの説明内容について、ご意見、ご質問はございませんか。

（神谷委員）

それぞれの事業についてご説明いただきありがとうございました。進捗状況について確認させてください。特に問題なく推進していただいていると思うのですが、資料にある「執行率」とは何を表しているのでしょうか。この率が低いと当初の予定より遅れているということでしょうか。

（教育総務課長）

資料に記載させていただいている「執行率」とは、平成 28 年度各予算を平成 29 年 1 月現在でどこまで執行したのかを示しています。例えば、事業自体は終わっても支払いが遅い場合にはどうしても低い率になりますが、今年度、各事業を順調に推進してきていますので、年度末になれば 100%に近い数値になるものと思っております。

（日下委員）

特別支援学校について、1 月 27 日に対象児童の保護者向け説明会を実施されたとのことですが、参加者はどのくらいで、どのような質問が出たのでしょうか。

（教育総務課長）

参加者人数は、対象児童 40 人の保護者の方々が来られました。出た質問の多くは、どういった学校となっていくのかという内容のもので、例えば、どこまでの医療行為が行えるのか、また、受け入れできる人数についてなどです。私どもも保護者の方々にとって関心の高い事項について把握することができましたので、これらを中心に今後の学校体制について詳細を詰めているところであります。

（池田委員）

資料の「徳」の「豊かな心の育成」に記載されている、東吉野村との交流についてお聞きします。私も東吉野村には行かせていただいたのですが、子ども達にこういった体験をさせるのは大変素晴らしいことだと思いました。この取組は今後どのように進めていく予定でしょうか。

(学校教育課長)

ありがとうございます。毎年3～4校の小学校6年生が東吉野村を訪問していきまして、平成31年度には市内全15小学校が訪問できることになります。また、平成32年度には東吉野村の子ども達を本市に受け入れる予定です。その後も、引き続き、友好的な関係を深めていきたいと考えております。

(教育長)

歴史的な観点からはもちろん、現地の人の温かさを感じることで子ども達の心の豊かさや情操を育むことにも繋がりますので、私もこの体験は非常に意味があると思います。

(日下委員)

部活動指導者についてお聞きします。外部指導者25名とのことですが、この方々はどのように募集しているのですか。広報紙などに募集記事を載せているのでしょうか。

(学校教育課長)

学校から各競技連盟などにお願ひし、紹介していただいています。専門的な技術指導をしていただくことにより、生徒のやる気が高められていると感じます。

(市長)

ありがとうございます。それでは、続きまして、議題(2)「意見交換」でございますが、テーマは「子どもたちに自信とプライドを育むには」ということで、思いやご意見などをお一人ずつお話しいただきたいと思います。では、池田委員からお願いします。

(池田委員)

昨今、若年層の自殺のニュースを目にします。若者というのは、本来明るい未来に向けてはつらつと希望あふれる社会生活を送るものだとは思いますが、様々な事情によりこのような結果となってしまっているのが現状です。学校は社会の縮図といわれるものの、学校生活においてもそのようなことが起こらないよう、教育の進むべき道と子どもたちの明るい未来について皆様と意見交換をしていきたいと思ひます。

子どもたちの自信とプライドを育むために、私はものづくりをひとつの提言といたします。本市はものづくりのまちであり、石田科学賞のような創意工夫をたたえる取組が積極的に行われています。子どもたちが創意工夫したものを形にするという流れは、子どもたちの励みになり、またものづくりのまち刈谷市という意識をさらに高めるきっかけになるのではと考えます。

(日下委員)

ものづくりの刈谷市という視点は大変重要で、一方、理科や工作が苦手な子どもは、音楽や芸術、スポーツといった分野で力を発揮していけたらと思ひます。市内の小中学校では学

級単位の合唱コンクール等に取り組んでおり、朝から歌声が聞こえてきます。歌うことは精神面でもプラスに作用し、みんなで力を合わせて作り上げ、クラスがひとつになれる合唱コンクールに引き続き取り組んでほしいと思います。また運動会での応援合戦も、運動が苦手な生徒が別のシーンで活躍できる素晴らしい機会であります。クラスの中に自分の居場所を見つけることで、子どもたちは「自分にはみんながいる」と認識できるのではないかと思います。

小学校高学年から中学校にかけて、子どもたちの人間関係は難しい時期を迎えますが、音楽、芸術、スポーツを通して仲間との絆を築くことで、生きる希望になるのではないかと思います。また様々な分野に可能性を広げ、活躍することで、子どもたちが周囲に認められることが大切であると考えます。

(畠委員)

私も、子どもたちに自信を持たせるためには、様々な活動を通して周囲に認めてもらうことが必要であると思います。例えば、中学生が防災訓練や熊本などの被災地でのボランティア活動で主体的に活躍しているという話をよく聞くのですが、このような経験がいかされ、成長し大人になってからも自信を持って行動できるようになるのではないかと思います。保育実習が子どもたちにとって印象的であったという話もあり、今後は介護実習なども視野に入れてもよいのではないかと思います。技術的なことは困難ではありますが、お年寄りの話し相手など簡単なことでもお年寄りに感謝されることで子どもたちは自信をつけることができると思います。

また、ボランティアに限らず、日常の学校生活においても教師が子どもたちに寄り添って気持ちを汲んであげることなどにより、自分が認められていると実感できると思います。

(神谷委員)

「プライド」を「誇り」と考えるならば、まずは、自分の立ち位置を認識させること、つまり郷土愛や自分はここで生まれ育ったのだという認識を持たせるということが大事だと思います。この地で、両親や先生、地元の人々に支えられているという感謝の気持ちと、一人で生きているわけではないという思いが抱けるようになれば、それが生きる力や自信、プライドの原点となるのではないのでしょうか。そのような中で、子どもたちは自分の得手不得手や持ち味を知り、子ども同士が認め合うことができるようになります。我々教育者や親は、子どもたちそれぞれの持ち味や個性を伸ばしてあげることが必要です。

そして、子どもの成長に合わせて、大人も一緒に成長することが大切です。なぜタバコを吸ってはいけないか、髪を染めてはいけないかという説明に説得力を持たせなければなりません。また、失敗や挫折をした子どもには、頂点に立てなかったとしても、ああしなさい、こうしなさいと言うのではなく、子どもが一つのことに邁進していく姿を見守り、そこまでの努力を認め褒め称えることが大切ではないかと考えます。

(教育長)

いろんな人たちに、本市の子どもたちが、バスを降りるときや横断歩道で車が止まってく

れたときに、きちんと「ありがとうございます」と頭を下げてお礼を言っていく子どもたちを見かけると褒められます。子どもたちがいろいろな経験を積んで、このような姿を見せてくれていることは、我々の教育の大きな成果の表れともいえるのではないかと私は思います。そのベースとして、先程も話にありましたようなボランティアなどを通して、人がどういった場面で感謝をするのか、また逆にどうしたら感謝されるのかということを経験として学んできているのだと思います。

しかし、私の心配事として、ひとつに不登校の子どもがあります。約200人に1人の割合の生徒が、自分に自信がない、または学校、友人関係、勉強などに不安があるといった理由で不登校となっています。このような子どもを減らしていくことは大変重要であり、そのためには様々な経験を通して子どもに自信を持たせる必要があります。しかし、学習指導要領の改訂により、子どもたちの学習スケジュールは過密になっています。そのような中でボランティア等の学習以外の体験をいかにして実施していくかが問われています。本市はおかげさまで一定の学力が保たれているため、さらに、子どもたちが自分自身の存在を示し自信へと繋げられるよう、ボランティアなどの経験のできる状況をうまく設定してあげる必要があると思います。

(市長)

達成感を味わうことや他人から褒められることにより、子どもたちが自信やプライドを持つことができるようになると思うのですが、今の時代、そのような機会が昔より減ってきていると感じます。学校や行政、家庭だけでなく社会全体で子どもたちを見守り、育み、ときにはしつけないといった役目を果たさなければいけないのですが、大変難しいことであると思います。私は年代的にはまだその名残の中で幼少期を過ごしてきているので、大家族やご近所の方々にいろいろとしつけてもらいながら育ってきた覚えがあるのですが、やはり時代の変化とともに子どもたちを取り巻く環境も変わってきています。そのような中で、先程も話に出ましたように、子どもが何か一つでも自信を持てるような分野を見出してあげられるよう、また、自信を持てずに不安を抱えている子どもには救いを手を差し伸べてあげられるよう、例えば本市も子ども相談センターの設置などをしてきておりますが、社会全体で様々な角度からきめ細かく対応していく必要があると思っています。この総合教育会議の場においても、みなさんからいただく貴重なご意見を受けて、今後の施策を展開していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

ほかに何かご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

(教育長)

今後、高齢化も進んでいく中で、子どもたちがお年寄りの方々と接することができる活動、例えば介護ボランティアなどをうまく取り入れていけるとよいのではないかと思います。

(市長)

昔は大家族でしたので当然のように身近にお年寄りもいたのですが、核家族化によりそれ

も少なくなってきましたね。家や家族といったアイデンティティのようなものが揺らいできていて、不安感を助長しているようにも思えます。そのような中で、本市の子どもたちが、バスを降りるときや横断歩道で車が止まってくれたときなどに、きちんとお礼を言っているというような話を聞きますと、大変喜ばしいことだと感じます。

さらに、日本全体としてもこのままではいけないと、例えば東日本大震災後には、思いやりの心や人との繋がり、規範などの大切さがテレビで盛んに取り上げられるなど、昔からの精神をもう一度思い起こさせるような動きを顕著に感じたものであります。

皆様、たくさんのご意見をありがとうございました。それでは、ほかに何かご質問等がございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。最後に、「3 その他」について、事務局、説明を願います。

(企画政策課長)

それでは、次年度の総合教育会議の予定について説明いたしますので、お手元の資料2をご覧ください。

一覧にありますように、平成29年度は5月、1月の2回、それぞれ定例の教育委員会と同日に開催する予定です。初回は、5月25日(木)に特別支援学校と第一学校給食センターの現地視察を兼ねまして、小垣江東小学校で開催しますのでよろしくお願いします。詳細は、日にちが近くなりましたらご案内させていただきます。

以上でございます。

(市長)

それでは、全体を通して、ご質問等ございましたら、お願いします。

よろしいでしょうか。それでは事務局にお返しします。

(企画財政部長)

それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。